

## ソーシャルキャピタルの再生をめざす記憶文化財の役割と活用 ～世代をつなぐふるさと絵屏風づくりを通して～

山内エコクラブ ○竜王真紀 井阪尚司

I. 目的：県下では、心象絵図をもとにしたふるさと絵屏風（以下「絵屏風」と記す）づくりがあちこちで進んでおり、これをまちづくりに活かすことが求められている。

地域資源の掘り起こしと可視化し伝える活動をしてきた山内エコクラブでは、9年間の歳月を経て、6つのすべての区で絵屏風制作に取り組み、3つの区が完成した。そこで、今回、絵屏風制作のプロセスをふり返り、古老の脳裏に刻まれている記憶がソーシャルキャピタルとしてどのような役割が担えるかを考察し、その利活用について検討し、文化イノベーションによる地域づくりに活かすことを目的とする。

II. 方法：完成した絵屏風について、制作関係者のヒヤリングと見学者からのアンケートによる意見を集計を集計し、さまざまな分野の専門家からの意見・文献をもとに記憶文化財の役割と価値をソーシャルキャピタルとなりうる条件と照らし検証した。

III. 倫理的配慮

本研究の概要と目的を説明、記載し、ヒヤリング・アンケートから得られるデータは、個人が特定されないように、統計処理すること、本調査結果は公表されることを説明して同意を得た。

IV. 結果と考察：

	絵屏風制作関係者 (地域の高齢者・製作者)	絵屏風を見た人 (地域間・世代間・行政)	専門家 (環境・福祉・教育・文化・観光等)
コメント・知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あの時代は、みんなが支え合っていたな</li> <li>・自分たちは頑張ってきた、いい人生だった</li> <li>・なんでも相談したな</li> <li>・年長者を敬ったな</li> <li>・モノを分け合ったな、</li> <li>・懐かしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の時代がよくわかった</li> <li>・記憶が蘇った</li> <li>・山内はすごいと見直した</li> <li>・これは地域の宝だ、</li> <li>・わざわざ故郷を見に帰ってきた</li> <li>・お年寄りはすごい</li> <li>・地域の力がすごい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然・社会・歴史との新たなつながりを結び、過去(経験)を育てて、からだ・こころ・たましいの新たな在在所をつくる」(上田洋平氏)</li> <li>・語り部の笑顔や勢いが健康的、参加していることに意味がある(公衆衛生医師)</li> <li>・原風景に咲くササユリが印象的(生物学芸員)</li> <li>・回想法による記憶を可視化することで、記憶文化財の領域を広げた意義は大きい。(民俗学芸員)</li> </ul>
絵屏風の活かし方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生きてきた場所や思いを知ってほしい</li> <li>・子どもや若い世代に助け合いの精神、もったいないを伝えていけるツール</li> <li>・生きがい、社会参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の地域でもやろう</li> <li>・自分の地域の歴史は何だろうと思うようになった</li> <li>・広域への発信(行政)</li> <li>・福祉施設に出前講座</li> <li>・疑似体験(食・農業体験)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや若者への福祉教育・環境学習</li> <li>・地域の社会的健康づくり</li> <li>・回想法からの介護予防・認知症予防</li> <li>・多様な動植物が生息する美しい里山の再現</li> <li>・記憶文化財が文化政策として位置づけすることが重要：ガイドブック作成、ガイドツアー</li> </ul>

地域社会における人々の生活様式や価値観の多様化・複雑化とともにグローバル化をめざす個人主義が強まり、家庭や地域社会での人々の結びつきは希薄化した。また、日本人が大切にしてきた世代間の知識・経験の継承や助け合い・つながりが日常的になされにくくなった。そのような現代社会の中で、絵屏風の取り組みは、高齢者の役割の発揮と地域福祉面での貢献の可能性、忘れかけている人材資源や地域資源を活用した共生社会の再生である。そして、今回のインタビューから絵屏風に含まれる記憶の意味に以下3点の価値を見出した。

1 点目は「絵屏風の内容に関わる文化的価値である。」①つながり“結”の精神②命の循環③暮らしや自然の生きものの多様性④限りある資源への感謝と節約⑤社会規範が、絵屏風には描かれている。2 点目は、「高齢者と地域の内発的価値である。回想法による記憶の復元による脳の活性化や自己肯定感の高まりと生きがいづくり」があげられ、またそこに住む人々の誇り・地域への愛着につながる。3 点目には、「未来につなぐ価値」である。子どもをはじめとする次世代が、高齢者に対する見方や接し方、思いやりを育める福祉学習になりうる。現代の暮らしに照らし合わせ、有限である資源への気づき、地域への愛着形成に期待できる。

以上のことから、ふるさと絵屏風は人と人、昔と今、都市と農村をつなぐことのできる生きたツールであり、ソーシャルキャピタルのひとつになることがわかった。今後は、高齢者が語り部として、豊かな知識と尊い経験が学び合いとしての「生きた教材」(教育力)として地域の活力となる場を支援していきたい。

また、ソーシャルキャピタルとしての絵屏風を活かして地域に文化イノベーションの風を起こしたい。それには、福祉・教育・環境・文化・観光等の機関と連携し、地域経済の発展と社会的課題を解決するSDGsにも通じる。

## 【発表目次】(15分)

### 1、テーマ 「ソーシャルキャピタルの再生をめざす記憶文化財の役割と活用 ～世代をつなぐふるさと絵屏風づくりを通して～」

#### 発表の構想図

- ・現状課題
- ・目的方法
- ・結果
- ・考察

2、現状と課題 伝承されていない 年寄りの経験や知恵を聞いてくれる人がいない 孤立化  
→社会資本としての価値が低い →記憶的価値の再評価と自己肯定感の高揚  
→福祉の役割であり地域創生として重要

3、経緯（作成過程）

4、目的・方法

屏風制作のプロセスをふり返り、古老の脳裏に刻まれている記憶がソーシャルキャピタルとしてどのような役割が担えるかを考察し、その利活用について検討し、文化イノベーションによる地域づくりに活かす。

5、結果

- ①絵屏風制作関係者（地域の高齢者・製作者）
- ②絵屏風を見た人（地域間・世代間・行政）
- ③専門家（環境・福祉・教育・文化・観光等）

6、考察

（1）「絵屏風の内容に関わる文化的価値である。」①つながり“結”の精神②命の循環③暮らしや自然の生きものの多様性④限りある資源への感謝と節約⑤社会規範が、絵屏風には描かれている。

（根拠例示）絵屏風図より紹介

→社会資本としての価値1

（2）「高齢者と地域の内発的価値である。回想法による記憶の復元による脳の活性化や自己肯定感の高まりと生きがいつくり」があげられ、またそこに住む人々の誇り・地域への愛着につながる。

（根拠例示）谷川さんの感想

→社会資本としての価値2

（3）「未来につなぐ価値」である。子どもをはじめとする次世代が、高齢者に対する見方や接し方、思いやりを育める福祉学習になりうる。現代の暮らしに照らし合わせ、有限である資源への気づき、地域への愛着形成に期待できる。

（根拠例示）子どもや学生の感想

→社会資本としての価値3

以上のことから、ふるさと絵屏風は人と人、昔と今、都市と農村をつなぐことのできる生きたツールであり、ソーシャルキャピタルのひとつになることがわかった。

7、今後の展開

今後は、高齢者が語り部として、豊かな知識と尊い経験が学び合いとしての「生きた教材」（教育力）として地域の活力となる場を支援していきたい。

また、ソーシャルキャピタルとしての絵屏風を活かして地域に文化イノベーションの風を起こしたい。それは、福祉・教育・環境・文化・観光等の機関と連携し、地域経済の発展と社会的課題を解決するSDGsにも通じるものである。

→ 古老が語り部として活躍

→ 回想法としての記憶の再生

→ 地域再発見に寄与する里山ツーリズムの展開

→ 「文化イノベーションによる地域づくり」＝「温故知新」の現代版